

大切畑ため池

(おおきりはたためいけ)



紅葉の中、渡り鳥が訪れるため池



桜並木に囲まれたため池

ため池の概要

ため池の所在地

熊本県阿蘇郡西原村

ため池の特徴

大切畑ため池は、肥後藩主細川公の命により、布田手永の惣庄屋矢野勘兵衛が、肥後の国の御用金をもって1855年に築いたもので、工事費は壱千貫匁であったとされています。その後1975年に大きく改修され、今の形となっています。

春は池の北側の桜、秋は南西側の紅葉が見もので、県内外から多くの観光客が訪れます。池の周囲は歩道が整備され、展望休憩所や広場があり四季折々の風景が楽しめます。

カモ、サギなどの鳥類が訪れ、周囲の山ではイノシシ、シカ、たぬきなども確認されています。

池は、水稻や甘藷などの田畑約200haを潤すとともに、隣接する深迫ダムへの送水も行われ、広い地域全体の農地にとって重要なため池となっています。

農業用水以外にも、年間を通じて防火用水など多目的に使用されており、また、地域が一体となって環境改善活動を行うなど、地域とのかかわりの深いため池です。

関連情報